

教育だより 【海士町教育委員会】

第46回立春式

立春の名に相応しく、春の到来を思わせる好天となった2月4日(土)、恒例となりました海士町立春式が、隠岐開発総合センター1島民ホールにおいて開催されました。

満14歳となる、海士中学校2年生の男女12名を迎え、式典をはじめ、中学生が自らの夢を発表する「少年の主張」、社会で活躍する人生の先輩からの「激励の言葉」などを行いました。

式典では山内町長から、「これから大人に向かう皆さんには、人情と自然に恵まれた海士で育った人間として、身近な課題に向き合いながらも世界的な広い視野を持つてふるさとに貢献できる『グローバル』な海士人になって欲しい」との言葉がありました。

また、生徒代表の村尾天智さんによる「誓いの言葉」では、「これからもたくさんの事に挑戦する気持ちをもち続け、どんな時も感謝の気持ちを忘れず、精一杯力強く生きていく」との宣言がありました。

「少年の主張」では、2年生の代表5名が壇上に上がりました。

中学生になって確信した夢のこと、職場体験を通じて実感した社会で働く者としての大切なこと、個性を大切にしていくことなど、自分の思いをしっかりと話していました。

「激励の言葉」は、イタリアンカフェ「フエリデーチエ」の桑本千鶴さんより、同じ海士中卒業生としてのアドバイスをいただきました。ご自身の実体験、感じたことを基に、丁寧に語っていただきました。

「自分を動かすほどの強い興味、喜びがとて大切だと思っています。それは自分自身しか感じる事の出来ない特別で貴重な感覚です。その感覚と、人との素敵な出会いを大切にこれからの素晴らしい日々を過ごして欲しい」という



言葉があり、生徒たちだけだけでなく会場の大人の心にも響く内容でした。

少年の主張を発表した代表の皆さん



吉田 朝陽さん



澤井 かのかさん



井手上 漠さん



岡本 亜矢子さん



誓いの言葉



その後、生徒の「感謝の言葉」では代表の植田遥さんが、「今まで支えて下さった家族や地域の皆さん、先生方、あらゆる方々に助けていただいた御恩を少しでも返していけるように、まい進していきます」と発表しました。

立春式の最後は、陶板作りです。生徒一人一人が自分の手形を押ししたり、その時の気持ちを表す言葉を彫ったりしました。陶板を焼き上げ、完成した際には、レストラン「島産まれ島育ち隠岐牛店」の入り口前に1年間掲示させて頂きますので、是非ご覧下さい。

(教育総務課 山下真司)